

## Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	報告	473
	日本地衣学会第13回大会報告 / 山本 好和	473
	会員通信	476
	日本地衣学会第13回大会および秋田地衣国際シンポジウムに参加して / 吉野 花奈美	476
	地衣学会に参加して / 蛭田 栄利子	476

### 報告 Report

## 日本地衣学会第13回大会報告

Report of the 13th Annual Meeting of the Japanese Society for Lichenology and Akita International Symposium of Lichenology / by Yamamoto Y. >>>> 山本 好和: 大会実行委員長

この度、7月12~13日に秋田カレッジプラザ（秋田県秋田市）講堂において、日本地衣学会第13回大会および秋田国際シンポジウムを開催した。参加者は、一般会員25名、学生会員15名、海外会員5名の計45名であった。



大会・国際シンポジウム開会式

大会初日11時から秋田国際シンポジウムが開催された。先ず棚橋孝雄会長（神戸薬大）が開会の辞を行い、その後、開催地を代表して山本（秋田県大）が「Development of experimental lichenology in last three decades」と題した開会講演を行った。午

後からセッションⅠとして地衣類の分子生物学分野から4つの招待講演が行われた。HUR Jae-Seoun氏（韓国国立順天大）による「Heterologous expression of lichen-forming fungal PKS genes in *Aspergillus nidulans*」、原光二郎氏（秋田県大）による「Recent advances in genomics of lichens」、WEI Xin Li氏（中国国立科学院微生物研究所）による「Species delimitation of lichenized fungi *Hypogymnia hypotrappa* group (Parmeliaceae, Ascomycota)」、高橋奏恵氏（千葉県立中央博）による「Phylogeny and taxonomy of Lobariaceae」。その後、休憩も兼ねたポスターセッションが行われ、大学院生を主とした8演題のポスターが発表され、活発な討論が行われた。次いで、セッションⅡとして化学・生理学分野から4つの招待講演が行われた。SANGVICHIEEN Ek氏（タイ・ラムカンハン大）による「Growing the lichen-forming fungi: experiences from the tropics」、河原秀久氏（関西大）による「Analysis of the cultivation form of a fructose lichen forming fungi and their substance productions」、木下薫氏（明治薬大）による「Chemistry of lichen substances」、小杉真貴子氏（国立極地研究所）によ

る「Year-round micrometeorological analyses in the Antarctic habitats of *Umbilicaria decussata*, *Ceratodon purpureus* and *Prasiola crispa*」. いずれの講演も今までの研究の経緯と成果をわかりやすく説明され、有意義なシンポジウムであった。シンポジウム終了後、18時半から秋田ビューホテルで懇親会を催し、秋田の素材とお酒を楽しんで頂きました。その後は、各自秋田の夜を楽しまれたと聞いています。

翌13日は9時半から年次大会の研究発表が行われ、口頭による9題の報告がなされた。各発表後には活発な質疑応答がなされた。午後、総会が開かれ、例年通り大会実行委員長が議長に選出され、先ず、棚橋会長から挨拶があった。その後河原庶務幹事より2013年度活動報告および2014年度事業計画遂行状況の説明があった。その後、いくつかの報告・協議事項の説明があり、その中に第14回大会の開催地(久留米)の報告があった。また、LE Duy Hoang氏(神戸薬大)に学術奨励賞、草間裕子氏(総研大)に学生発表A賞、綿貫攻氏(秋田県大)に学生発表B賞が授与された。総会に引き続き、LE Duy Hoang氏による「Chemical study of common lichens in the South of Vietnam」と題する受賞講演がおこなわれた。



14日から2日間、青森県奥入瀬溪流と十和田湖畔宇樽部キャンプ場でフィールドトリップを開催した。

学術奨励賞受賞のHoang氏(上)と学生発表賞受賞の綿貫氏、草間氏(下)

参加者は海外会員も含め、20名であった。また、現地の奥入瀬溪流会や宇樽部キャンプ場の人たちの参加もあった。14日は朝、秋田駅に集合し、車で十和田湖畔

に向け出発、昼頃に到着し、十和田湖畔で昼食をとりつつ地衣類観察を行った。湖畔の十和田神社ではスギのご神木上のヌカホソピンゴケの大群落があった。その後奥入瀬溪流に移動し、溪流沿いの遊歩道の地衣類



十和田湖畔・宇樽部キャンプ場にて、参加者全員と

を観察した。夕刻、十和田湖畔の宿舎に入り、夜はバーベキュー、その後の懇談と楽しい夜を過ごした。翌日は十和田湖畔の宇樽部キャンプ場で地衣類観察を行った。両日天気にも恵まれ、十和田・奥入瀬の自然と地衣類に満足したフィールドトリップだった。

秋田県立大学から開催支援を頂いた。感謝申し上げます。

## 日本地衣学会第13回大会・国際シンポジウムプログラム

### 秋田国際シンポジウム (July 12)

#### -Opening Address

TANAHASHI Takao (Kobe Pharmaceutical Univ., Japan)

#### -Opening Lecture

"Development of experimental lichenology in last three decades"

YAMAMOTO Yoshikazu (Akita Prefectural Univ., Japan)

#### -Oral Session I - Molecular biology field

O1 "Heterologous expression of lichen-forming fungal PKS genes in *Aspergillus nidulans*"

YU Nan Hee, KIM Jung A, JEONG Min-Hye, CHEONG Yong Hwa, HUR Jae-Seoun (Korean Lichen Research Institute, Suncheon National University, Korea)

O2 "Recent advances in genomics of lichens"

HARA Kojiro (Akita Prefectural Univ., Japan)

O3 "Species delimitation of lichenized fungi

*Hypogymnia hypotrappa* group (Parmeliaceae, Ascomycota)"

WEI Xinli\*, LI Hui\*, ZHOU Qiming\*, McCUNE Bruce\*\*, LUMBISH H. Thorsten\*\*\*, WEI Jiangchun\* (\* Institute of Microbiology, China, \*\* regon State University, USA, \*\*\* The Field Museum, USA)

O4 "Phylogeny and Taxonomy of Lobariaceae (lichenized Ascomycota, Peltigerales)"

TAKAHASHI Kanae (Natural History Mus. & Inst.,

Chiba, Japan)

-Poster session

- P1 "Taxonomical study of *Chaenotheca* spp. (Lichenized Ascomycota, Coniocybaseae) in Japan"  
KUSAMA Yuko\*, IMURA Satoshi\*\*\*, HARA Kojiro\*\*\*, KOMINE Masashi\*\*\*, TIBELL Leif\*\*\*\* & YAMAMOTO Yoshikazu\*\*\* (\* The Graduate University for Advanced Studies, \*\* National Institute of Polar Research, \*\*\* Akita Prefectural University, \*\*\*\* Uppsala University)
- P2 "Rediscovery of *Buellia lauricassiae* (Fée) Müll.Arg. in Japan"  
WATANUKI Osamu\*\*\*, HARADA Hiroshi\*\*\*, KOMINE Masashi\*, HARA Kojiro\* & YAMAMOTO Yoshikazu\* (\* Graduate School of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, \*\* Natural History Museum & Institute, Chiba; Research Fellow, \*\*\* Natural History Museum & Institute, Chiba)
- P3 "The diversity of endolichenic fungi associated with dominant lichens in the Maritime Antarctica (King George Island)"  
YU Nan Hee, CHEONG Yong Hwa, HONG Soon Gyu, JUNG Jae Sung & HUR Jae-Seoun (Korean Lichen Research Institute, Suncheon National University)
- P4 "Effects of copper on pigments and lichen substances of *Stereocaulon japonicum* growing in copper-polluted environments"  
NAKAJIMA Hiromitsu\*, HARA Kojiro\*\*, YAMAMOTO Yoshikazu\*\* & ITOH Kiminori\* (\* Yokohama National University, \*\* Akita Prefectural University)
- P5 "New understanding into the relationships of muriform ascospore in lichen family Trypetheliaceae (Ascomycota: Trypetheliales)"  
LUANGSUPHABOOL T., SANGVICHIEEN E., LUMBSCH T. H & PIAPHUKIEW J. (Faculty of Science, Chulalongkorn University)
- P6 "Further study about effects of gamma-ray irradiation on lichen cultured mycobionts"  
KOBAYASHI Yui\*, FURUTA Masakazu\*\*, HARA Kojiro\*, KOMINE Masashi\* & YAMAMOTO Yoshikazu\* (\* Akita Prefectural University, \*\* Osaka Prefectural University)
- P7 "Microthallus formation of *Usnea rubrotincta* in the laboratory conditions (2) - Approach of microthallus formation from natural thallus fragments -"  
ISHIHARA Takashi, HARA Kojiro, KOMINE Masashi & YAMAMOTO Yoshikazu (Akita Prefectural University)
- P8 "Isolation of lichenized cyanobacteria from *Peltigera polydactylon* and study on its photosynthetic activity"  
SATO Tomoki\*, KOMURA Masayuki\*\*, HARA Kojiro\*, KOMINE Masashi\*, YAMAMOTO Yoshikazu\*, ITOH Shigeru\*\* & IWASAKI Ikuko\* (\* Akita Prefectural University, \*\* Nagoya University)

-Oral Session II - Chemistry and physiology fields

- O5 "Growing the lichen-forming fungi: experiences from the tropics"  
SANGVICHIEEN Ek (Ramkhamhaeng University, Thailand)
- O6 "Analysis of the cultivation form of a fructose lichen forming fungi and their substance productions"  
KAWAHARA Hidehisa (Kansai University, Japan)

- O7 "Chemistry of lichen substances"  
KINOSHITA Kaoru (Meiji Pharmaceutical University, Japan)
- O8 "Year-round micrometeorological analyses in the Antarctic habitats of *Umbilicaria decussata*, *Ceratodon purpureus* and *Prasiola crispa*"  
KOSUGI Makiko\*, KUROSAWA Norio\*\*, KAWAMATA Akinori\*\*, KAMEI Yasuhiro\*\*\*\*, KUDOH Sakae\* & IMURA Satoshi\* (\* National Institute of Polar Research, Japan, \*\* Soka University, \*\*\* Ehime Prefectural Science Museum, \*\*\*\* National Institute for Basic Biology)

-Banquet (Akita View Hotel)

日本地衣学会第13回大会

7月12日

-評議員会

7月13日

-一般講演

- A1 「日本産淡水生地衣類(5)」  
原田 浩 (千葉県立中央博物館)
- A2 「日本産リトマスゴケ科地衣類の分類学的研究(1)」  
○坂田 歩美\*・原田 浩\*\* (\* 千葉県立中央博物館共同研究員・\*\* 千葉県立中央博物館)
- A3 「rRNA コード領域の塩基配列による南極産 *Umbilicaria aprina* の分子系統学的分類」  
○田中 征矢\*・鶴 雄基\*\*・中島 裕之\*\*\* (\* 久留米工業高等専門学校専攻科・\*\* 東京農工大学工学部・\*\*\* 久留米工業高等専門学校生物応用化学科)
- A4 「南極昭和基地周辺の地衣類について」  
○川又 明德\*・小杉 真紀子\*\*・黒沢 則夫\*\*\* (\*愛媛県総合科学博物館・\*\* 極地研究所・\*\*\* 創価大学)
- A5 「キゴケおよびハナゴケ科の地衣類による重金属集積および地衣体内における重金属分布」  
○末岡 裕理\*, 柳原 正幸\*, 世良 耕一郎\*\* (\* 愛媛大学・理工学研究科・\*\* 岩手医科大学・サイクロトロンセンター)
- A6 「裂芽をもつ日本産ゴンゲンゴケ *Hypotrachyna* (ウメノキゴケ科地衣類)の化学成分について」  
○吉川 裕子\*・原田 浩\*\* (\* 千葉県立中央博物館共同研究員・\*\* 千葉県立中央博物館)
- A7 「天然地衣類の抗エラストーゼ活性のスクリーニング」  
○明嵐 加央里\*・原 光二郎・小峰 正史・山本 好和 (秋田県立大学生物資源科学部)
- A8 「天然地衣類の抗コラゲナーゼ活性のスクリーニング」  
○舟木 晴香・原 光二郎・小峰 正史・山本 好和 (秋田県立大学生物資源科学部)
- A9 「培養地衣菌の抗酸化活性成分」  
○蛭田 栄利子・伊藤 汐理・鈴木 見佳・川上 寛子・原 光二郎・小峰 正史・山本 好和 (秋田県立大学大学院生物資源科学研究科)

-総会

-奨励賞受賞講演

- S1 "Chemical study of common lichens in the South of Vietnam"  
LE Duy Hoang (Kobe Pharmaceutical University)

### 日本地衣学会第13回大会および秋田地衣国際シンポジウムに参加して

*Impression of 13th JSL meeting and International Symposium / by Yoshino K.*

>>>>> 吉野 花奈美: 千葉大学園芸学研究科博士前期過程

今年から地衣類の研究を始めたのをきっかけに、今回初めて地衣学会に参加させていただきました。大学で地衣類について教わる機会のなかった私は、まず地衣類でこういった研究がなされているのか、また地衣類は一体どこまで解明されているのか知りたいと思っていました。地衣学会は私が参加している他の学会よりも規模が小さく、とてもアットホームな感じてした。学会後の観察会を含め、4日間で多くの先生や学生さんとお話でき、それだけで大きな収穫でした。シンポジウムではまず、今年度で退官されてしまう山本先生からのご講演がありました。私の研究にも関わるような培養のお話から、地衣類のこれまでの研究についての総括的な幅広い内容のお話がありました。あと1年研究を始めるのが遅かったら、山本先生から直接地衣類の培養について教わることはなかったと思うと、非常に感慨深かったです。ポスターや口頭発表では他にも培養を基にした地衣体の再形成や、分離したシアノバクテリアの光合成能力、

抗酸化成分の抽出など、興味深い話をいくつも聴くことが出来ました。重金属や遺跡など思ってもみなかった地衣類との関係性も知ることでもできました。分類に関する話題もいくつかあり、まだまだ検討し尽されていないことや、地衣類の形態が非常に多様であること、分類する上で形態観察と分子生物学的検討がなされていてどちらも重要であることなどが分かりました。現在は山本先生から分けて頂いた地衣類を培養しているのですが、地衣類にはモデルとなっている種がないので、今後自分で地衣類のサンプルを選択する際どうしたらよいのか考えていたところ、原先生の世界的なモデル地衣の検討に関するお話もあり非常に参考になりました。今回は何も発表するものはありませんでしたが、次の学会では皆さんの興味を惹けるような発表ができるよう研究を進めていきたいと思います。地衣類にまだまだ不慣れな私に色々と教えてくださった方々には、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

### 地衣学会に参加して

*Impression of 13th JSL meeting and International Symposium / by Hiruta E.*

>>>>> 蛭田 栄利子: 秋田県立大学生物資源科学研究科博士前期課程

今回初めて地衣学会に参加させていただきとても貴重な経験となりました。

地衣類はあまりメジャーな生物ではないと思っていたので、これほど多くの研究者がいることに大変驚きました。と同時に、こんなに素晴らしい先生方や研究者の方が多くいることを心強くも感じました。

地衣観察会では、急遽開催された夜の観察会が非常に面白かったです。UVランプを片手に、青紫に発光している地衣類を野外で観察するのは初めての経験で、昼間とは違う地衣類を見ることができました。

これからも、研究や観察会を通して地衣類の新たな活性などを探求していきたいと改めて思いました。

#### ●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに。

#### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 127, pp. 473-476: eds. Kinoshita K., Komine M. & Harada H., published by the Japanese Society for Lichenology, 6 Dec. 2014.

日本地衣学会ニュースレター 127号

発行日: 2014年 12月6日

編集: 木下 薫・小峰 正史・原田 浩

発行者・発行所: 日本地衣学会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35

関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科

微生物工学研究室